

平和賞 原点回帰を

【ロンドン＝小嶋麻友美】今年のノーベル賞の発表が五日の医学生理学賞から始まるのを前に、九日発表のノーベル平和賞の選考をめぐり、賞の地元のノルウェーやスウェーデンの研究者らから、ノーベルの遺志を尊重するよう求める声が強まっている。平和賞の「原点」ともいえる「軍縮」や「非核」の具体的な活動に焦点を当てるべきだとの主張で、第二次大戦終結と原爆投下から七十年の節目だけに、受賞予想では日本の被爆者や平和憲法への注目も高まっている。

スウェーデンの化学者だったノーベルが遺言で言及したのは①国家間の友好関係②軍備の削減・廃止③平和会議の開催・促進の三点。

国家間の友好関係
軍備の削減・廃止
平和会議の開催・促進

しかし、二度の大戦を経て「平和」の概念が変わり、選考に当たるノルウェー・ノーベル賞委員会の解釈は、人権や民主化運動、環境問題などさまざまな領域に広がった。

近年、核政策で実績をあげたとは言い難い就任一年

目のオバマ米大統領(二〇〇九年)や、ユーロ危機最中の欧州連合(二二年)が受賞したことに疑問が噴出。今年、ノルウェー平和評議会元会長でノーベル賞の歴史を研究するフレデリック・ヘファメル氏が「ノーベルの遺志の尊重」を委員会に求める運動を始めた。

〇一年のノーベル賞百年に当たって賞の歴史を検証したヒーター・バン・デン・デュンゲン英ブラッドフォード大教授(平和学)は、今年の候補に日本原水爆被害者団体協議会(被団協)や護憲派市民団体「九条の会」を推薦。「冷戦が終わった今も世界は核兵器に脅かされている。日本の被爆者はただ生存者であるだけではなく、現在の核軍縮のために価値ある活動が続けてきた」と評価する。

デュンゲン氏は、戦後三十年の一九七五年以降、十年ごとの授賞の「慣習」も指摘する。

旧ソ連で核兵器に反対した科学者アンドレイ・サハロフ氏から〇五年の国際原子力機関まで、節目の年に選ばれたのはいずれも核廃絶に関わる活動。一今年は

ノーベル平和賞の主な受賞者

1901年(第1回)	アンリ・デュナン 国際赤十字創設者
1974	佐藤栄作元首相
75	アンドレイ・サハロフ
79	マザー・テレサ
85	核戦争防止国際医師会議
89	ダライ・ラマ14世
95	バグウォッシュ会議(核兵器廃絶を訴える科学者の国際会議)
2000	金大中韓国大統領
05	国際原子力機関(IAEA)、エルバラダイ事務局長
07	気候変動に関する政府間パネル、ゴア米元副大統領
09	オバマ米大統領
12	欧州連合(EU)
14	マララ・ユスフザイ、カイラシ・サトヤルティ
15	?

※□は核兵器関連の受賞

「被団協」「九条の会」日本にも視線

広島、長崎から七十年。被爆者の平均年齢は八十歳を越え、今が受賞の時だ」という。

一方、毎年受賞予想をすること有名なオスロ国際平和研究所のクリスチャン・ハルブライキン所長は一日、最終予想の四番目に日本「九条の会」を挙げ、「憲法九条は一九四五年の記憶をとどめるとともに、現在の日本の改憲の議論にも大きく貢献している」と理由を説明。予想のトップは「難民問題でリーダースhipを発揮」したドイツのメルケル首相とした。

オスロ国際平和研究所が推薦人などから入手した情報によると、長崎原爆被災者協議会会長の谷口稜庵さん(八八)、市民団体「憲法九条にノーベル平和賞を」実行委員会の鷹巣直美さん(三〇)も候補に含まれているという。

メルケル首相とした。ノーベル賞委員会は、今年度の平和賞にふさわしいとして有識者から推薦された候補者が六十八団体、二百五人に上るとしているが、具体的なリストは公表していない。

オスロ国際平和研究所が推薦人などから入手した情報によると、長崎原爆被災者協議会会長の谷口稜庵さん(八八)、市民団体「憲法九条にノーベル平和賞を」実行委員会の鷹巣直美さん(三〇)も候補に含まれているという。



プラカードを掲げ、街頭で声を上げるデモの参加者ら。2日夜、東京・新橋で(北村彰撮影)